

# 株式会社 ジェイテック

<http://www.j-tec.co.jp/>

所在地 大阪府茨木市彩都やまぶき2-4-35

TEL&FAX 072-643-2292 072-643-2391

代表者 代表取締役 津村 尚史

創設年月日 1993年12月21日

資本金 13,924万円

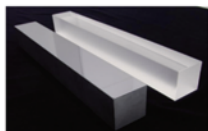
従業員数 23人

## 事業内容

株式会社ジェイテックは設立当初より、自動細胞培養装置等バイオ研究支援機器をオーダーメイドで構築し、製薬企業等に納入してきた。最近はいPSアカデミアジャパン(現iPSポータル)と共同で、iPS/ES細胞用自動細胞培養装置「CellPet®」を開発し、販売開始した。また産業技術総合研究所(筑波)と共同開発した3次元細胞培養システムを用いて、軟骨再生の前臨床研究を横浜市立大学や大阪大学と推進し、またさらに大量培養への展開もはかり、再生医療、創薬への事業展開に注力している。

同社は、放射光施設等で使用される世界トップのナノ集光を実現する超高精度の非球面集光ミラー「OsakaMirror®」も開発しており、硬X線の世界最小集光径を達成している。同社のミラーは大阪大学と理化学研究所の研究成果をもとに製造しており、国内のSPring8やSACLAをはじめ世界各地の先端的な大型放射光施設や自由電子レーザー施設に多数納入されており、結晶化が難しい膜タンパク質の構造解析など最先端の創薬研究の発展に大きく貢献している。

2014年には関西イノベーション国際戦略総合特区の優遇措置を受け、彩都地区に自社の研究開発センターを建設し、そこへ彩都バイオインキュベータ内のラボを移設して研究・開発・製造の体制を拡充させた。



当社放射光用X線ナノ集光ミラー

OsakaMirror®



iPS/ES細胞用自動培養装置

CELLPET®



各種自動細胞培養装置

Cellmeister®

## 知的財産活用事例

最先端の放射光施設で要求される非球面形状をナノレベルの形状精度で加工するためには、加工技術に加え、加工した形状を高精度に計測する技術も重要である。株式会社ジェイテックの加工および計測技術は、大阪大学で開発された「ナノ加工技術：EEM」と「ナノ計測技術：MSI/RADSI」に基づいているが、知的財産に関しては、加工と計測で対応を変えている。加工に関しては、大阪大学の基本技術とともに、同社が長年蓄積してきた製造ノウハウも必要であり、このノウハウは他社が容易に真似できるものではなく、開示する必要性もないため、特許出願は基本特許のみに留め、周辺技術はノウハウとして秘匿する戦略を取っている。一方、計測に関しては、大阪大学の基本技術をベースに上記加工法に適した高度な計測技術を開発しているが、同社ミラーの非球面精度の高さを顧客に理解してもらうには、その計測方法も十分に説明しなければならず、その過程で独自の計測技術の情報を開示せざるを得ない。つまり、計測技術に関しては社内ノウハウとして秘匿し続けることが不可能であるため、基本特許だけではなく周辺特許も出願する戦略を取っている。

## 知的財産の創出や活用に関する取組

現在X線ナノ集光ミラーに関する特許は国内18件、海外13件(うち出願中8件)、自動細胞培養装置については国内6件(うち出願中2件)であり、いずれも今後増加する見込みである。株式会社ジェイテックでは、現在の両事業とも知的財産を経営の根幹をなすものとして重要視しており、社長、技術顧問、特許顧問による特許戦略会議を適宜開催し、知的財産の取り扱いに関する方針・戦略を策定している。特許出願をする際には、自社の技術や事業戦略を熟知する特許顧問が明細書の作成などを行い、事業にマッチした戦略的な権利取得が可能な体制を整えている。なお、製品の商標についても同様に、簡易型ES/iPS細胞用自動細胞培養装置「CellPet®」やX線ナノ集光ミラー「OsakaMirror®」など6件を登録している。

## 起業を目指す人への知的財産に関するアドバイス

技術志向の企業であれば、事業戦略においてキーとなるコア技術は特許として抑えるべき。特許出願は大学との共願になるケースもあるだろうが、その際には大学の研究者や産連本部などとのコミュニケーションが重要になる。学会発表と特許出願のタイミングといった直近の課題だけでなく、たとえば独占か非独占的権利許諾かなど将来の事業化後に想定される課題についても、企業と大学の互いの立場を理解し合いながら十分に話し合い、将来のトラブルの芽を早めに摘んでおくといい。